



山本悟正さんご夫婦は、松浦にも伊万里にも知覧にもいらっ
しゃった。大島にも漁船で案内
したはずである。「知覧特攻平
和会館」の入り口で山本さんの
奥様の文字さんは立ちすくんだ
まま、中に入らなかつたのが印
象的であった。知覧の家で囲炉

裏を囲んだ。山本さんは、それ
からずっとわたしの劇団の舞台
写真やわたしの顔写真を撮って
くれている。近所付き合いはこ
の人だけである。

「エッセーとは、つまるところ
自慢話である」といったのは
井上ひさし氏である。皮肉屋の

多摩区民祭がある。地元の人
舞台公演や出店があるのは、ど
この区民祭も同じである。日本
民家園では骨董市をやる。わた
しは近所付き合いのある山本さ
んや家内とぶらりと出かけた。

骨董市で目に付いたのが東郷
平八郎の書であった。ただの書

あった。冷静になって、よくよ
く考えると平八郎の書などあり
得ることではないような気もす
る。

山本さんは「なんでも鑑定団
で鑑定してもらえばいい」と真
顔で言った。鑑定団から依頼が
あれば鑑定してもらってもいい

骨董市の平八郎書

井上ひさしさんらしい言葉であ
る。ま、もう少し自慢話を続け
るとするか。

わたしの家の道路一つ隔てた
山の向こうには日本民家園があ
る。岡本太郎美術館や日本民家
園をひっくるめて生田緑地とい
う。この生田緑地で秋になると

ではなく、大砲の筒を切り抜き
ガラスを張った中に書いてある
書である。書には「治而不乱」
と書いてあった。平八郎書の署
名もあった。値段を聞くと「5
千円」とのことである。慌てて
買い求めた。家の蔵の奥から引
っぱり出してきたという感じで

が、愛想よく「偽物ですね。飾
ってお楽しみになればいい」と
でもいわれれば、どうすればい
いのか。考えてしまう。うたぐ
り深いのが劇作家である。
今年も多摩区民祭はあるが、
その日、わたしは銀座の東宝本
社で映画の打ち合わせがある。

わたしの作品の映画化する企画
が始まってから、よく銀座の東
宝本社を訪ねるようになった。
ビルの12階の応接室から銀座を
見下ろすと、天守閣の秀吉にな
った気分になる。すぐに地下鉄
で帰るんだけどね。

「ゴジラ」を企画しているこ
ろは「今どき、ゴジラがヒット
するのか」と関係者は懐疑的で
あったが、「シン・ゴジラ」が
ヒットしたいまは威勢がよくな
った。まだ、わたしは見えてい
ないからなんとも言えないが「ゴ
ジラ」だって骨董品といえは骨
董品である。その骨董品が手を
変え品を変えて稼ぎ続けるので
ある。稀有なケースといえる。

「八月は、心残りの季節かな」
遊園。
(松浦市出身)